

(社)日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第6回 風洞実験実施基準分科会(P3SCPh2)議事録

1.日時 2009年1月16日(金) 10:30~12:30

2.場所 日本原子力発電株式会社 本店 第8会議室
(神田美土代ビル1階)

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 井手(主査), 柿島(副主査), 沼田(幹事), 安達, 山澤, 舘野, 鈴木, 佐田,
永井_清, 永井_晴, 筑紫, 大場, 劉(福田委員代理), 込山, 安田(15名)

(欠席委員) 北林(1名)

(常時参加者) なし

4.配布資料

P3SCPh2.6-1 第5回 風洞実験実施基準分科会議事録(案)

P3SCPh2.6-2 「風洞実験実施基準の改定について」(本報告用)

P3SCPh2.6-3 「改定案に対するコメント集約表」

P3SCPh2.6-4 標準委員会の活動状況

P3SCPh2.6-参考-1 標準委員会 発電炉専門部会 風洞実験実施基準分科会委員一覧 改4

P3SCPh2.6-参考-2 標準委員会、専門部会スケジュール(基盤・応用技術)

5.議事録

(1)出席委員の確認

主査により 16 名の委員中，開始時点で 15 名の委員の出席があり，定足数(11 名以上)を満足していることが確認された。

(2)前回議事録の確認

安田委員より P3SCPh2.6-1 に基づき第 5 回風洞実験実施基準分科会議事録(案)が説明され，誤記の修正を行うことで原案通り了承された。

(3)標準委員会の活動状況

原子力学会事務局より P3SCPh2.6-4 に基づき標準委員会の活動状況が報告された。第 34 回標準委員会にて基盤・応用技術専門部会の新部会長（岡本孝司部会長）が承認された。

(4)標準改定案の本報告について

沼田幹事より P3SCPh2.6-2, P3SCPh2.6-3 に基づき本報告表紙案及びコメント集約表が，込山委員，佐田委員，安田委員，永井清委員，大場委員及び沼田幹事より分担して P3SCPh2.6-2 別紙 1 に基づき改定案が説明された。

本報告は専門部会 3 月，標準委員会 6 月頃に予定しており，コメントがある場合は 1/30 までに幹事まで連絡することとなった。

コメントを反映することで本実施基準案等を専門部会に本報告することが採択により全会一致で承認された。

説明後の主な質疑を次に示す。

1)本文

- ・ 1. 上から 9 行目，風洞実験を実施する場合を明確にするため，“風洞実験を実施するのは，原子炉施設の新設時並びに増設時における大気拡散・・・建屋及び地形の影響が著しい・・・”に修正する。
- ・ 1. 下から 4 行目，適用範囲を明確にするため“放出形態が類似の[原子力施設発電用原子炉施設以外](#)にも適用することができる”に修正する。

2)附属書 3

- ・ 1. 上から 6 行目“(α)”は，α の上にバーがくるように体裁を整える。

3)附属書 4

- ・ 1. 1 上から 1 行目“本体 [43. 3](#)” → “本体 [34. 3](#)” [に下線を入れると誤記修正する](#)。

4)附属書 5

- ・ 1. a) 凡例 y の説明“風下主軸・・・”を明確にするため“風下中心軸・・・”と修正する。なお，本文 4. 3 a)における記載も同様に修正する。

(5)その他・今後の予定

- ・ 専門部会及び標準委員会に報告をした際、大きなコメントがあった場合のみ分科会を開催する。

以上